

今回の規則改訂ポイント

(一社) 日本マスターズ水泳協会
競技委員会

趣旨 国内のローカルルールを無くし、国際水泳連盟（F I N A）の規則に準じる規則にする。

削除、訂正

第4条 出 発 1 (4) スタート台またはプールデッキからスタートする競技者が、審判長の長いホイッスルによりスタート台前方またはプールデッキ前縁に出た時に、誤ってプールへ落ちた競技者は、水中からスタートするものとする。ただし、出発合図員の号令の後に落ちた場合は、フォルススタートと見なされ、その競技者は失格となる。
全文削除（審判長判断とする）

第6条 背 泳 ぎ 4 壁に手でタッチをして折り返す場合は、壁に手がついた後に折り返しの動作が開始されるので、壁に体の一部が触れるまではあおむけの姿勢を維持しなければならない。
一部削除（折り返しの動作開始の解釈は同じ）

第8条 バタフライ 5 また、次の折り返しあるいはゴールまで、1ストロークの動作中に体の一部が水面上に出ることを条件に体が完全に水没することは許される。ただし、水面に浮き上がるための水中での一かきまたは蹴りを除き、水没した状態で泳法を行うことは許されない。
一部削除（審判長判断、今年度短水路大会は指導とする）

第10条 競 技 16 第2泳者以降が水中からスタートする場合は、前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者の足が壁を離れた場合は、そのチームは失格となる。
一部削除（審判長判断、事前申請による許可制）
17 リレー競技においては、水中からスタートする競技者を除き、正当な順序に従ってスタートする競技者以外は、全てのチームの全て競技者が競技を終了し、審判長が終了を認める以前に水に入ってはならない。違反した場合は、そのリレーチームは失格となる。第2泳者以降が水中からスタートする場合は、事前に審判長に申し出ること。
全文削除、文章訂正

追加

第6条 背 泳 ぎ 1 バックストロークレッジを使用する場合は、つま先はタッチ板に接していなければならない。
2 バックストロークレッジを使用する場合は、設置、取り外しは折返監察員が行う。

第13条 記 録 3 世界記録あるいは日本記録を樹立したリレー競技のメンバーは、同じチームの登録者でなければならない。
5 4×25mのリレー競技を除き、混合を含めリレー競技の第1泳者の記録は新記録に申請することができる。リレーの第1泳者が違反なく泳ぎ終えれば、続く泳者に失格があったとしても、第1泳者の記録は無効にはならない。